

るり光

No.135 2016. 9

発行 真言宗豊山派
北田山 寶泉寺
所沢市北岩岡 130
編集 色摩 真了
ホームページアドレス
takaranoizumi.com

寶泉寺秋の勉強会

養老指南塾

認知症に特徴的な症状で「夕暮れ症候群」というものがあるそうです。夕方近くになるとソワソワし始め、自宅にいても、施設にいても、なぜか「帰宅」したがる症状です。

その対処法として **A** という施設では、鎮静剤を打ちお年寄りに眠ってもらいます。**B** という施設では架空のバス停を設け、帰りたがるお年寄りや職員と一緒に帰宅のバスを待ちます。当然、バスは来ませんので、ある程度の時間が経過後、職員が「今日は施設に泊まろうか」と促します。認知症のお年寄りは **A** と **B** では **B** の対応をとった方がその後の時間も落ち着いて過ごすことができるのだそうです。

この話を教えてくれたのは、前回この『るり光』に登場していただいた、僧侶で看護師の玉置妙憂さん。介護のプロでもある玉置さんによると、最近では、お年寄りの気持ちに寄り添った介護術がどんどんと発展してきているとのこと。そんな、介護する側とされる側、お互いが健やかでいられる心構えや方法を、「養老指南塾」と題し、皆様にお伝えしたいと思います。

講師は前述の玉置さん。日時は11月5日、12日、19日の全三回

(すべて土曜日、午後1時～4時まで。途中参加、一日参加も歓迎)



と少し長丁場であるものの、玉置さんのお話は理論的かつとても面白く、充実した時間になることをお約束いたします。

受講料は一回につき1000円をちょうだいいたしますが、どなたでもご参加できますので興味のある方はお気軽に寶泉寺までおたずねください。

～六波羅蜜まとめ～

お彼岸は、お墓参りをするだけではなく、私たちが普段から行うべき六つの善行＝「六波羅蜜」を見直すための期間でもあります。そのような趣旨から平成25年、彼岸特別連載「六波羅蜜」をスタートさせました。一つ一つの項目はお伝えしてきましたので、今回を最終回とし、これまでを総括したいと思います。

「波羅蜜」には「達成する」とか「到る」という意味があります。最終的にどこへ到るかといえはもちろん「彼岸＝仏さまの世界＝成仏」で、そのための6つの方法が「六波羅蜜」ということになります。

その6つの行いを、ワンポイントアドバイスを加えつつおさらいしましょう。お彼岸のたびに少しでも思い出していただけたら幸いです。

① 布施波羅蜜（施すこと）

布施には見返りを求めるなどの邪心が入ってはいけません。また、迷惑がらずに布施を受け入れることも大切な善行になります。

② 持戒波羅蜜（戒律をたもつこと）

「殺めない」、「嘘をつかない」などの戒律の「戒」には「習慣」という意味があります。戒律は「習慣」とすることが大切です。

③ 忍辱波羅蜜（堪え忍ぶこと）

ダライ・ラマも「忍辱」は最上の修行であると教えています。なぜなら、忍辱なしに人の成長はありえないからです。

④ 精進波羅蜜（努力すること）

「百万の敵に勝つよりも、ただ一人の自己に打ち克つ者こそが真の勝利者である。」(『法句経』)

⑤ 禪定波羅蜜（心身を安定させること）

心と体はつながっています。そのどちらかを静めることで、一方も静まり、穏やかな時間を過ごすことができます。

⑥ 智慧波羅蜜（執着を断ち切った仏の智慧を実装すること）

布施・持戒・忍辱・精進・禪定を完成させたときに智慧が備わり、また智慧なき他の五波羅蜜は偽物であると説かれます。

老僧のつぶやき ②

この夏、天皇陛下が生前退位のご意向を発表されました。そのお気持ちに応えるには、陛下のお立場、憲法や各種法律の整合性を考えると大変な困難が先に控えているようです。

では、お寺はどうかというと寶泉寺をはじめ大方のお寺の規則では住職の任期は終身とされています。しかし「生前退位」は関係者の検討の上、本人の自由意志にまかされているようです。早くに交替するご住職、まさに終身に渡って務めを果たされる方とまちまちです。陛下のお言葉に「行事の時に間違えることもありました」というお話があります。その場面をテレビを見ていた小僧は「あれっ」と思ったことを記憶しています。

ところで生まれ育った実家のお寺の師僧（父）は70才も後半のころからか、一緒に葬儀を勤めたさい、そのたび毎に「今日の私は（お勤めのこと）どうだった」と聞いてきたものでした。間違ったりしてはいけなるとそれなりの緊張を強いられたのと、あの年にもなると今までのようにはいかないことが実感できたのだと思います。

ありがたいことに寶泉寺には難しい法規制などはなく、世間的には早々と住職の交替をさせていただきました。今こうして住職の役割を離れてみて、天皇陛下にはご退位されてゆっくりとお過ごしなされてはと思います。

奥多摩新四国88カ所 (4)

長雨の晴れ間をぬって自転車を走らせました。

8) 第23番、**菩提山密蔵院**（所沢市山口） 山口地区の奥まった所、旧菩提木（ぼだいぎ）村、このあたりは小道が複雑に配され趣のある風情が感じられます。菩提樹の大木があったことから村名となり、もう少し奥には菩提樹（ぼだいぎ）池があります。ここへも足を伸ばそうとしたが、途中で場所を聞いた方から今の季節は行かない方がいいとの忠告で引き返しました。マムシやヤマカガシがいるそうです。高度成長時代の前は池を水源としてお寺から前の方はずっと田んぼだったそうです。

9) 第52、65、67、77、79、番

香庵山金乗院（所沢市上山口） 山口観音はまたの名前、西武ドームの向かいにある古刹、五カ寺分がまとまってまつられています。ご本尊は千手観音、秘仏（厨子の扉が常時閉じられている）であるが33年に一度のご開帳があり、その時期が間もなくやって来るはずです。所沢地区の「粕谷、糟谷家」と特別な由緒のあるお寺でもあります。

10) 第42番、**星見山清照寺**（所沢市上山口） トトロの森とほぼ隣接した急坂を上り詰めた集落の一番奥にあります。昭和初期、このお寺も狭山湖築造のために移転を余儀なくされたお寺です。境内が狭いのも、そのあたりを物語っているのでしょう。元の集落は狭山丘陵の開けた一角にあり、戸数345戸と寺院2カ寺が湖底に沈んだと記録されています。ここから自転車でさらに坂を上り詰めると、トトロの森からは夏を惜しむかのようなセミの音が聞こえてきました。

みんなで長谷寺に行こう!!



本堂正面に貼ってある長谷寺のポスターはご覧になりましたか？見事な紅葉の風景が写っています。今年はまた特に色づきが良さそうとの長谷寺からの情報もあります。

長谷寺～室生寺～西大寺～興福寺～石山寺の参拝旅行ですが、まだ少々お席に空きがございます。5年に一度の企画ですのでこの機会にいかがですか？日時は**11月27日～29日の三日間**となっています。

今年も無事にるいの会(お泊まり会)を終えることができました。



編集後記

・夏の終わりにかけて後半台風が目白押し。実は寶泉寺では台風9号によって「るり洞」が床上浸水してしまった。道路側溝からあふれだした水がテラスに流れ込み、排水が間に合わなかったものだ。本堂の設計当時では1時間当たりの降雨量100mmに対応できる排水能力を持たせるという事だったが、設計上側溝からの水は計算外であった。しかも設計当時、1時間、100mmという降水の観測は全国にまだ無かった。しかし約20年後の今では全国的にはあちこちで100mmを超える降雨が観測されるようになった。気象の変化が著しいことを感じると共に、

水対策が不十分であったことに忸怩たる思いである。

・境内の白い芙蓉の写真が「市民新聞」に載り、何人かの方が「どこですか」とお出でになった。そういえば去年の秋、「桜とモミジと一緒に見られる寺」との記事が載った。その時もけっこうな人が訪れていた。「何々の花で有名な・・・」とは思わないが、季節を通じて何らかの花が咲いているお寺がいいなと思っている。先日から冬桜が咲きだし、モミジもそのうちに赤く染まることでしょう。彼岸花も花茎を伸ばし始めた。
Sep. 15. 2016 (琴)